

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町65  
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175  
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

## 米国聖公会総会に出席して

首座主教 ナタナエル 植松 誠

米国聖公会( ECUSA )の総会( ジェネラル・コンヴェンション )は3年毎に開かれるが、今回は6月13日～21日の9日間、オハイオ州の州都コロンバスで開催された。その3週間前に開かれた日本聖公会総会で私は首座主教に選出されたのだが、それよりもずっと前から日本聖公会首座主教を米国聖公会総会に招待したいとの申し出がフランク・T・グリズワルド総裁主教から届いており、それに応える形で私は訪米した。私の北海道教区主教としての予定は、教会巡回を含めて既にいっぱいであり、このような急な訪米は当初無理と思われたが、私としてはどうしても米国聖公会総会に出席しなくてはならないという思いがあった。

その一つは、昨年10月に来日されたグリズワルド主教の総裁主教としての最後になる今総会で、同主教に来日のお礼と感謝をお伝えしたいと思ったからである。二つ目に、「ウインザー・リポート」の勧告に米国聖公会が総会としてどのように決断するかを自分の目で確かめたいと思った。そして、三つ目に、今総会で次期の総裁主教として選出される主教とお会いしておきたいと思ったことである。あえて四つ目をあげれば、この総会に集まる昔からの友人や、米国聖公会のアジアアメリカ・ミニストリーの人々に会えるかもしれないという期待もあった。結果的に、今回の米国聖公会総会に出席したことは私にはとても大きな収穫であった。以下、今総会から見えた米国聖公会の問題点や苦悩、将来への方向づけ、また、米国聖公会が持っている豊かな賜物などについて、ほんの一部を紹介したいと思う。

### グリズワルド総裁主教と広島

昨年秋、グリズワルド総裁主教が来日した際、広島を訪れ、原爆資料館を見た後、広島復活教会で行われた聖餐式において感銘深い説教をされた。昂まる感情でしばらく説教が中断したと聞いた。説教の中身よりも、米国聖公会の総裁主教が広島での礼拝で泣いたという事実こそが、日本人の心に

## 会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)

および7月25日以降)

- 7月  
20日(木) 祈禱書等検査委員会  
24日(月)～25日(火) 文書保管委員会および作業会  
25日(火) 人権関係NCC派遣委員会  
25日(火) 女性の課題担当者会議  
26日(水) 青年委員会  
26日(水) 日韓協働プロジェクト  
26日(水)～28日(金) 聖歌集改訂委員会(京都)  
27日(木) 年金の将来を検討する特別委員会  
30日(日)～31日(月) 第1回女性会議準備会(和歌山)  
31日(月)～8月1日(火) 書記局会議
- 8月  
7日(月)～9日(水) 人権セミナー(京都)  
11日(金)～16日(水) 日韓聖公会青年セミナー(河口湖)  
16日(水)～19日(土) 第1回聖公会女性会議(スコレプラザ箱根)  
24日(木) 聖公会/ローマカトリック合同委翻訳作業会  
28日(月)～29日(火) 文書保管委員会
- 9月  
1日(金) 広報主査会  
4日(月) 正義と平和委員会  
6日(水) 主事会議  
12日(火)～14日(木) 管区共通聖職試験  
13日(水) 教区制改革委員会  
19日(火)～21日(木) 主教会(大宮)  
25日(月)～26日(火) 文書保管委員会および作業会
- 10月  
4日(水) 年金の将来を検討する特別委員会  
5日(木) 管区共通聖職試験委員会  
6日(金) 常議員会

\* \* \*

(次頁へ続く)

訴える大きなメッセージであったことを、私はグρίζワルド主教に伝えた。原爆資料館で見たものは、同主教の心に計り知れない強烈な衝撃を与えたと彼は私に語り、米国の軍事的核戦略に対して、聖公会は反対の立場を今後さらに堅持していかなくてはならないと信じていると語った。フィビ夫人は、訪日した際、日本聖公会の女性たちと教会における女性の働きについて話し合いができたことを高く評価していた。

#### 世界が注目した米国聖公会総会

米国聖公会の歴史で、今回の第75回総会ほど世界中の聖公会管区から熱く注目された総会はなかったであろう。それは一言で言うと、米国聖公会総会での決定如何で、世界の聖公会が分裂することになるのではないかという危機感を、多くの人々が抱いていたからである。表向きは「人間の性」(ヒューマン・セクシュアリティ)、それも同性愛ということがその中心的な問題であったが、実はそれ以前に、ここ数十年の全聖公会の変遷が、世界のグローバル化の波の中で、カンタベリーの主教座と交わりを持つ世界の聖公会管区間の「愛の絆」という概念だけでは、アングリカン・コミュニオンの組織を維持できないほどの摩擦が生じ始めたことが前提にあるように思う。それまでの母教会に依存していたアジア・アフリカの教会の自治自立(自律)、母教会における新たな神学・聖書学の再検討と再構築に対して異議を唱える福音主義的立場を重んじる教会、南北の経済格差、それぞれの地域における福音の土着化と内実化など。これらは、全聖公会の標語としてきた「多様性の中の一致」という概念では包摂しきれない違いと差の実態を生み出し、それゆえに世界の聖公会の交わりが少しずつ軋みを生じてきたと言えよう。

それは既に1988年のランベス会議ころから明らかになり、1998年のランベス会議では、それが同性愛の問題を中心に顕在化され、その後、「損なわれた交わり」の傷はさらに深まっていた。そして、2003年の米国聖公会総会で、パートナーと生活を共にしている同性愛者の主教按手を承認する決議がされたことから、これを、1998年ランベス決議「同性愛を聖書

(前頁より)

関係諸団体会議等

8月21日(月)~23日(水)  
第49回日本聖公会関係学校教職員研修会(大阪)

8月26日(土)~29日(火)  
WCRP世界大会(京都)

9月17日(日)~18日(月)  
第6回聖公会手話関係者全国の集い(川口基督教会)

と相容れないものとして拒否する」やその後開かれた首座主教会議での警告を無視する行動と見なす管区(特にアジアやアフリカ)は米国聖公会との交わりを断ったり見直すことを表明した。このような混迷からカンタベリー大主教は特別委員会を設置し、今後の聖公会の一致をどのように推進していくかを検討させ、その結果生み出されたのが「ウインザー・レポート」であった。同レポートは、米国聖公会に対して、分裂を回避して聖公会に留まるためのいくつかの提案をしており、今回の総会が、それらへの公的な応答になるはずであった。

#### ウインザー・レポートに関して

「ウインザー・レポート」に関する議案は、11時間の協議を経て、最終日にやっと決議が行われた。活発な議論は、修正案に継ぐ修正案の連続で、果たして総会として採決ができるかどうか心配であったが、有能な議長の手腕と、また、今回の総会で何らかの結論を出さなくてはならないという議場の意志によって、何とかぎりぎり採決が行われた。その詳細はここでは割愛するが、米国聖公会として、今後もアングリカン・コミュニオンの一員として、世界の聖公会との最高レベルの交わりを継続していく。

同性愛の問題に関しては、世界の教会と共に、「傾聴」の過程を大切にしていく。世界の聖公会に米国聖公会が痛みと混乱を与えたことを遺憾とし、謝罪する。同性愛者(正確には、「その人の生活様式が、世界の教会にとって問題となり、さらなる緊張をもたらすと思われる人」)に対しては主教や常置委員会などは按

手を承認しない、などということが決議された。また、同性愛者間の「結婚」に関しては、そのための式文を作成するという議案が否決されたことにより、これも米国聖公会としては、現時点ではそれを正式に認めることはしないという意味表示をしたことになる。

#### ショリー主教選出が意味するもの

110教区から800人を越える代議員と、約200人の主教議員を召集しての米国聖公会の総会であったが、これだけ大きな議会であり、また人種、民族、言語、文化、生活様式が異なる人々の教会として、その内包する問題は無限にあり、まさに多様性の中の一致を目指しながらも、全員が一致することはあり得ず、一つひとつの決議に関しても、喜びと失望が同時にあり、ともすると、同じ意見を持つ人だけでグループを作って暴走しそうな恐れを持ちながらも、その中で聖餐式(毎回、異なった言語や音楽、それも伝統的な聖歌隊からジャズ、マリ

アッチなど工夫がこらされていた)と聖書の学びを毎日行い、理性を働かせてこれらの議論が淡々と行われていたことに深い感動を覚えた。

今回の「ウインザー・リポート」への応答も、決して米国聖公会全体のものとはなり得ないであろうし、その賛否両論の中で、次期総裁主教に女性のキャサリン・J・ショリー主教が選出されたことは、「ウインザー・リポート」に対してかなりの妥協と譲歩を強いられた米国聖公会が、彼女を総裁主教に選ぶことによって、世界の聖公会に、改めて一つの挑戦と主張を表明したことになるのではないだろうか。ショリー主教が今後世界の教会において米国聖公会を代表していくことを思うと、その荷のあまりの重さに、日本聖公会首座主教としては、でき得る限りの協力を惜しまずに連帯していきたいと思っている。



## 日本人としての心の痛みを伝えたい

いよいよ夏が始まります。私どもも忙しくなりました。一昨日、7月17日は神戸教区の倉敷伝道所の開所式にお招きいただきました。あまり元気がないといわれる日本聖公会の中での新しい伝道拠点のスターですから、日本聖公会全体の喜びであり励ましであります。使われなくなった銀行を改造した建物ですので、「地上の富を蓄える銀行から、天上に富を蓄える器に変えられますように」とご挨拶してきました。これからゴールだけが示され、プロセスはすべて未知の歩みが始まりますが、ご活躍をお祈りする次第です。

明日からはフィリピンに参ります。「人権活動家の超法規的殺害にストップを! フィリピン教会連帯訪問」というのですが、開発の名のために貧しい人々の人権が無視されているそうです。

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕  
地域社会に根を下ろした神父・牧師は人権のための活動のリーダーになるようです。そして命を狙われます。貧しい人々の人権というゴールが見えていても、困難なプロセスの中にある人々とともに「おかしいじゃないか」という声を上げなければ、小さな声も多くが集まれば大きな声になります。

8月6日はパプア・ニューギニアのニュートン・カレジという神学校のチャペルの聖別25周年記念の礼拝にお招きいただいています。本来は主教会のお役目ですが、どなたもご都合が悪いということで、このチャペルの建築には日本聖公会が協力したのですが、和解と言うより謝罪の心からの協力であったのでしょうか。太平洋戦争の初期に日本軍はパプア・ニューギニ

アを占領し、聖公会の司祭、教育伝道者、医療伝道者計8人を含めて各教派合わせて333人の宣教師を殺害したのです。加害国である日本人としては何とも心痛むことですが、パプア・ニューギニアの教会は殉教者を身近かな先輩に持つ教会なのです。

1942年1月31日、日本軍の侵攻が間もないというときにラジオで宣教師たちに伝えられた主教のメッセージの一部です。「私に知る限り皆さんはすべて任地にとどまっており、私は非常に嬉しく感謝している。それぞれの身にどのような犠牲があるうとも、いかなる状況にあっても各々の任務を継続すべきと最初から考えている。もしも霊においてキリストの体であるパプアの教会が受難の影に覆われようとするこのとき、もしわれわれの安全のために彼を見捨てて逃げれば、私達の将来は恥に満ちたものとなり、ここに戻ってきて人々に会わせる顔を持たないだろう。私達は自ら大切なときを失ったことを深く後悔することになる。否、私の兄弟姉妹よ、キリストにある同労者よ、他の人々がどうであれ私たちは去ることは出来ない。私たちは去らない。私たちは信頼によって立つ。私たちは召された召しによって立つ。すでに多くの人々は私たちを愚かであり正気を失っていると考えている。それがどうしたというのか。もし私たちが愚かだとすれば、私たちはキリストのために愚かなのである。将来は分からない。将来無傷であると保証することは出来ない。唯一つ私が保証できることは、もし私たちがこのパプアにおいてキリストを、キリストの身体である教会を見捨てることがなければ、彼も私たちを見捨てられることはない。彼はこれからの日々、私たちを支えられ、強

められ、導かれ、守られる。恐れることなく信頼しよう」

手元に全文がありませんが、以前英国のレスターのヴィヴィアン・レドリッチ司祭の殉教を記念する教会で見た記憶では「命を失っても、それがどうなのか。天に宝を増し加えるだけではないか」と続くはずですが、レドリッチ司祭の最後の葉書もありました。「パプアの森という以外ここがどこかも分からない。メイの消息も分からない。もしも以後の私から連絡がなければ、最後までキリストに忠実であったと知ってください。」そして以後の連絡はありませんでした。メイとは婚約者の宣教看護師です。彼女も日本軍の銃剣で殺害されました。その運命を悟ったとき、自ら顔をタオルで覆ったと伝えられています。ここにもプロセスは分からなくても、しっかりとゴールを見つめた姿があります。

殉教とは決して望ましい出来事とは思いません。しかし捨てることを通して得、また与えることの多いことも思われます。加害者である日本人としての痛みと、その信仰の後継者としての喜びの間で複雑な思いです。「8月6日は皆さんにも特別な日ですから」とのお招きですが、この複雑な思いを正直にお話ししようと思えます。そして、この日本人だからこそ平和への祈りに加えていただこうと思えます。愚かであっても、平和への歩みを進めたいと思えます。「英雄」も殉教者も必要としない世の中を実現したいと思えます。平和という遠いゴールであっても、そこに至るプロセスに小さな祈りと働きを逃げることなく加えることができますようにと願います。

#### 常議員会

第56(定期)総会期第1回 7月4日(火)

1. 常議員会書記選任の件

司祭 輿石 勇を選出

2. 管区事務所主事推薦承認の件

総務主事: 阪田隆一(専任)、渉外主事:

八幡眞也、財政主事: 三村英夫、宣教主

事: 司祭 武藤謙一、広報主事: 鈴木 一

3. 第56(定期)総会期諸委員選任の件 次号掲載

4. 総主事出張の件

(1) The Chapel of St. Athanasius of

Newton College( PNG )聖別25周年記念礼拝出席

- ・国・都市名：パプア・ニューギニア
- ・期間：7月31日(月)～8月8日(火)

(2)フィリピン教会連帯訪問 人権活動家の超法規的殺害にストップを!

- ・国・都市名：フィリピン
- ・主催者：NCCフィリピン委員会
- ・期間：7月20日(木)～25日(火)

5. 首座主教感謝金の件  
次回会議 10月6日(金)

### 主事会議

第55(定期)総会期第21回 6月26日(月)

1. 総会で決議された事項の実施について

(1)「セクシャル・ハラスメント防止機関ならびに相談窓口設置のためのモデルを策定する件」

(2)祈祷書改正等に関する以下の決議の日本聖公会内への通知方法について確認

- ・祈祷書中の「使徒信経」の一部改正：祈祷書挟み込み用の『使徒信経カード』を作成して、各教会宛配布する。
- ・聖餐式で用いる詩編の確定：「旧約聖書朗読後の詩編表」を作成して、各教会宛配布する。

次回以降の会議 9月6日(水)

### 各教区

#### 東北

- ・平和の祈り 8月14日(月)～15日(火)場所：十和田湖畔ヴァイアル山荘 鉛山聖教主礼拝堂 主催：東北教区宣教部

#### 北関東

- ・「療養所との新たなる出会いを求めて」8月25日～27日 会場：国立療養所栗生楽泉園内、聖慰主教会 講師：執事 太田国男師(九州教区菊池黎明教会)、藤田三四郎氏(聖慰主教会信徒、栗生楽泉園入園者自治会長) 主催：北関東教区社会部・宣教部・人権担当者 協賛：日本聖公会人権担当者

#### 東京

- ・教区フェスティバル2006 つくろうひろげよう 和と(わとわ)9月18日(月)会場：香蘭女学校 10時半聖餐式 イベント・交わり12時～

#### 京都

- ・信徒の集い 9月17日(日)～18日(月)場所：聖アグネス教会、ホテルルビノ京都堀川 テーマ：『みんなの教会』

† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

主教 パウロ久保淵豊彦(九州教区・退職)  
2006年7月12日(水)逝去(94歳)

### 《人 事》

#### 東京教区

執事 ビード李民洙 2006年4月1日付 ソウル教区より入籍許可  
執事 ケビン・シーバー 2006年6月4日付 三光教会牧師補任命  
<信徒奉事者認可および分餐奉仕許可>  
2006年6月12日付 2007年3月31日まで  
(聖オルバン教会) スコット・ウォーカー

### 《移 動》

新町聖マルコ教会(北関東) 電話撤去

幼稚園の閉園に伴い撤去。連絡は前橋聖マツテア教会(小野寺司祭)へ。

## 日本聖公会各教区報のなかから

毎月、管区事務所また広報主事宛に送っていただく各教区報等のなかからご紹介しております。

### 日本聖公会第56(定期)総会の報告

#### 東北教区報・神戸教区報

東北教区報あけぼの(2006年6月号)

この度、広報委員会の取材で日本聖公会総会を傍聴いたしました。総会の様子や印象に残った事柄をご報告いたします。(略)

議場では、予算決算や聖職者の年金問題などの経済的な分野から、祈禱書研究、ハンセン病問題や沖縄在日米軍基地などの人権・社会問題まで、日本聖公会の活動に係わるあらゆる分野について、たいへん多くの報告と議案の審議、意見交換がなされました。社会問題、特に沖縄在日米軍基地、教育基本法に関する議案に対しては、信徒に政治的判断を求めようなことを総会が行って良いのかという疑問が投げかけられました。しかし、神の愛によって生かされている私たちキリスト者は、「命」を守らなければならない、その「命」に係わる重大な問題に対しては、教団として意見を表明すべきであるとの方向が示されました。

3日間にわたり18の報告と41の議案を審議するという、エネルギーを要する総会でしたが、一つ一つの課題を突き詰めると、すべて私たちの身近な問題につながります。(略)

最後に印象に残った項目を幾つご紹介いたします。

#### 「み言葉の礼拝」の研究

定住司祭の減少などにより、主日礼拝を、聖餐式ではなく信徒司式による「朝の礼拝」を行う教会が増えています。主日にみ言葉を聞くことを中心とした「み言葉の礼拝」の研究が、現在行われています。

#### 教区制改革

教区間の「協働の促進」と「給与格差の是正」を目標に、他教区との交流を積極的に行い、2007年までにその内容を報告することとなりました。

#### 人権、正義と平和

近年明らかになったセクシャル・ハラスメントの事

件をきっかけに、防止機関と相談窓口を各教区に設置できるよう、管区でモデルを策定することが決まりました。また、女性に関する課題の担当者を管区に置くこととなり、女性がそれぞれに与えられた力を十分にいかして奉仕できるように、また、日本聖公会、海外の聖公会などの女性の諸団体との連絡・調整役として働かれます。

(編集部 若生伸子)

神戸教区報神のおとずれ(2006年7月号)

(略)特に私たちの教区や信仰生活に関わりの深い三つの議案について述べさせていただきます。

第1は、現在使用されている「古今聖歌集」に代わって「日本聖公会 聖歌集」が公用の聖歌集として出版されることが承認されました。(略)

第2は主教選挙に関して、「主教選挙候補者推薦管理委員会規程」が承認されました。この議案は教区主教を選挙する時、教役者議員および信徒代議員が教区会前にあらかじめ推薦される候補についてのより多くの情報を公平に得て考えることができるように推薦管理の事務を行う推薦管理委員を置いてよいというものです。特に候補者が他教区に属する場合などは有効だと思います。

第3は、祈禱書中の「使徒信経」に関して、原典では「主イエス・キリストを信じます。」の前に「わたしたちの」という文言があるのですが、現行祈禱書にはないので、これを回復する議案が承認されました。次回の総会で承認されると正式に採用されることになります。

この他にも重要な議案があります。2009年に日本聖公会は宣教150年を迎えますが、その記念礼拝を行う「準備委員会」を設置すること、教区制改革に向けて各教区が宣教、人事、財政などの具体的な活動において積極的に協働していくこと、また管区にセクシャルハラスメント防止機関並びに相談窓口を設置すること、さらにバンク状態にある聖公会年金については2008年の総会まで「年金の将来を検討する特別委員会」を継続して設置することなどが承認されました。(略)

(報告者 司祭 ヨハネ芳我秀一)